

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターエポック(放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2025年1月15日		～	2025年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	108名	(回答者数)	48名
○従業者評価実施期間	2025年1月15日		～	2025年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月1日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	併設されている幼稚舎より、継続して利用を希望される方が多いため、開始時には、個々の認知、学習スタイルの評価が来ている。その評価をもとに個別・集団の療育を提供している。	送迎サービスを提供していないため、一部移動支援を利用している利用者を除いて皆保護者が建物内に待機している。療育終了時には保護者に今日のねらいと子どもの様子を話し、家庭での様子や今後家庭で取り組んでほしい事、事業所で扱っていくことなどの懇談を毎回実施している。希望に応じて、療育を参観することも可能。また、担当制になっており継続した療育を提供できる。	様々な科学的な根拠に基づく手法を用いて療育を展開する。そのために、各々の技術と知識が向上するように研鑽する。招聘研修や内部研修、派遣研修などで全体のレベルアップを目指す。
2	TEACCHプログラムに倣い、自立をめざして個々に構造化を行い理解を支援している。	保護者に療育終了後に毎回懇談時間をとることで、療育の振り返りが出来ている。支援者の目的と方向性を明確にし、支援は上手くいかない時には上司に報告相談するシステムができています。個別支援計画作成時には、各担当から本児の様子を聞き取り、目的と支援方法、評価について整合性が見られるかという点で話し合いを持っている。	上記同様。
3	社会的で自発的なコミュニケーションを保証するために、一部の児童にはPECSを実施している。PECSを用いない時にも、視覚的なツールを用いながら支援を行っている。	PECSのBOOKを自分の言葉として持ち、あることを常態化するために、身辺整理のチェック事項としてBOOKを靴から出し入れすることを提示している。また、各エリアにはBOOKを収納する場所を設置し、コミュニケーションの機会を保証するようにしている。また、絵カードを作成できない保護者には、カードを有料で提供している。	PECSの使用場面が、おやつや、特定の課題場面に偏らないようにする必要がある。無発語でPECSの使用を進めている場合でも、事業所のみで使用していることもあり生活場面で定着し使用することは難しい。学校や他事業所でも使用できるように働きかける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎を行っていないため、保護者の都合により欠席になり安定した利用の実績が予測できないこと。	児童が体調不良でない時も、家族の都合、兄弟が病気になる、兄弟の学校行事に参加しないといけないなどの理由で来所が制限される。欠席の主な理由になっている。	今後も利用実績を予測することが難しい問題は継続する。
2			
3			

事業所名	児童発達支援センターエポック (放課後等デイサービス)
------	--------------------------------

公表日 2025年3月4日

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		○	○	○		
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○				
	② 職員の配置数は適切であるか	○				
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○			車いすが室内のエリアを移動するにはやや狭い。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			毎日のミーティングで、環境や教材、利用者の状況など気になる点を出し合い、業務日誌に記載することにより共有できるように努めている。	
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケート以外にも、懇談や、療育終了時の話で、保護者の意向をくみ取るようにしている。	
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○				
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			訪問事業と関連し、相談事業所や学校など関係機関にアンケートを取り、改善できる点は改善した。	
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			ケースカンファレンスの時間を取ったり日々のミーティングで話し合ったり、招聘研修を行った。	
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			懇談等で保護者のニーズを聞き、療育に反映できるよう努めている。	
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			必要に応じて用いている。	
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○				
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			書物や、研修などで学んだことを伝え合い、固定化しないように努めている。	
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○				
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○				
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			支援終了後に限らず、療育中であっても声を掛け合って、支援の方向性や提示の仕方について共有しようと努めている。	
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○				
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○				
⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○					

関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			開催時間によって参加が難しい場合を除いて出席するように努めている。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○				
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○				
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○				見学や電話連携など、積極的に受け入れている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○				
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○				
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○			障害の程度が比較的軽い子どもは、地域の児童会との関係がある。しかし、重度の子どもは訪問看護など大人との関係になっている。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか		○			当事業所代表が参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○				
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○			困りごと、相談については個別に対応したが、精神的な疾患を持っている保護者に対してのトレーニングや提案は難しかった。
保護者への説明責任等	㉚	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			報酬改定にあわせて全員に説明している。	
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			当事業所では、相談事業所と併設されているため連携をとりながら支援助言をしている。	
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○			父母の会は結成されていないが、子供が同集団になった保護者のつながりはあり、毎回支援の内容について話し合いを行っている。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				その都度対応した。場合によって施設長が対応したほうが良いと思われるものについては、報告し対応を依頼した。
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○				法人全体の会報を配布している。その他、避難訓練などの連絡事項は、掲示板に掲示している。
	㉟	個人情報に十分注意しているか	○				サインの必要な実績表や、本日の来所者、靴箱のシート等は、分かりやすくするため保護はしていないが、その他個人情報の取り扱いに十分注意している。
㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○					

	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			非常時の避難場所に指定されている。	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			保護者控室や玄関にファイルを設置し、年度初めに場所と大まかな内容を伝えている。	
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			今年度は、津波と地震を想定し訓練を実施した。スタッフは、月1回、併設されている児童発達支援の訓練に参加し対応できるようにしている。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○				
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			自傷他害が見られる利用者に関しては、支援計画の中に書き込み保護者に了解を得ている。	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			おやつ等でミスが生じないようにスタッフの目の届く場所に一覧表を掲示している。	
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○				